

貴となく、賤となく、老となく、少となく、悟りても死、迷うても死

「貴となく、賤となく、老となく、少となく、
悟りても死、迷うても死」

山本常朝『葉隠』より

——寿命はみんなにある。だから精一杯生きよう——

身分の高い人であろうと、低い人であろうと、金持ちであろうと、貧乏であろうと、老いた者も若い者も、悟りを開いていても、迷っていても、結局皆、死を迎える。

死は誰にでも平等に、そしてどんなタイミングにも訪れるもの。

そのことを考えれば、自分がどのように生きるべきか、どのように日々過ごすべきかが、自然に定まってくる。

死ぬ間際には、充実した人生であったと思えるように。